

専攻研究(社会) / 前期集中

年度	学科・科目群	講師名	学年	曜日・時間	授業形態	学期
2023年度	一般 専攻教養群	西村 聡	指定なし	火曜日 1時間目	指定なし	通年 春学期

講座到達目標

到達目標

変わりゆく現代社会について、報道現場の当事者としての実体験を交えながら15回に分けて伝える。メディアリテラシーの能力を高める。

その他

教科書	特になし
参考文献	授業の都度、引用した新聞記事、雑誌、新書を紹介する。
学習内容 授業形態	
留意点	少なくとも新聞1紙は読み、ニュースを積極的に視聴してもらいたい。
授業時間以外の学習	
評価方法	出席率と最終授業で出す課題についてのレポート内容を総合判断。
実務経験と 科目の関連	

各講座内容については次頁に表記

各講座内容

1講目	今、社会で起きていること 変わりつつある社会
2講目	18歳から成人 問われる責任と自覚
3講目	デジタル空間に潜む危険性について
4講目	日本国憲法について
5講目	ロシアによるウクライナ侵攻がもたらしたもの
6講目	エネルギー危機について
7講目	脱炭素社会とは
8講目	SDGsについて
9講目	格差社会について
10講目	問われる資本主義 ベーシックインカムについて
11講目	祇園祭について
12講目	新型コロナウイルスが社会に与えた影響
13講目	感染症の歴史
14講目	京都アニメーション放火殺人事件について
15講目	宗教と社会 政治のあり方について

専攻研究(経済) / 前期のみ

年度	学科・科目群	講師名	学年	曜日・時間	授業形態	学期
2023年度	一般 専攻教養群	一宮 真佐子	1年生 First Year	木曜日 5時間目	指定なし	半期 春学期

講座到達目標

到達目標
ミクロ経済理論の基礎を学び、それらが日常生活のどのような現象と関わっているかを理解する。

その他

教科書	なし(毎回の配布資料が最終的に教科書兼ノートになります)。
参考文献	講義内容に応じて、そのつど提示します。
学習内容 授業形態	<p>毎回の講義時に資料を配布。 受講しながら書き込み欄を埋めたものをファイリングしておく(ミニテスト・期末テストはこれを見ながら回答する)。 毎回講義の終わりにミニテスト実施、提出(翌週、解答とともに返却)。 欠席した場合。 前回の内容を踏まえて講義が進んでいくので、必ずTeamsの各回講義の返信欄にある講義録画を視聴し、次回講義までに内容を理解しておくこと。 翌週、講義資料・ミニテスト・ミニテスト解答をセットで渡すので、講義録画を再度視聴しながら講義資料を埋め、自分でミニテストを解いた後、答え合わせしておくこと。</p>
留意点	前の週の学習内容が次の週につながっていくことが多い(特に春学期の理論編)ので、できるだけ出席してください。公欠・就職活動で欠席する時は事務室に届け出てください。
授業時間以外の学習	講義終了後、Teamsの各回講義の返信欄にある講義録画を視聴しながら配布資料のノートを見直す。翌週、返却されたミニテストの解答を見て答え合わせをし、講義資料のどこから出題されたか確認しておく。
評価方法	平常点(毎回のミニテストの提出3点×15回)+期末試験55点。期末試験はミニテスト14回分から抜粋して出題(手書きで書き込んだ配布資料のみ持ち込み可。ミニテストと回答そのものや文面をそのまま書き写したものは不可)
実務経験と 科目の関連	

各講座内容については次頁に表記

各講座内容

1講目	ガイダンス 経済学でモノ・コト・ヒトを考える
2講目	基礎概念・用語について
3講目	何に何円使おうか? ~ 効用と予算制約 ~
4講目	何に何円使おうか? ~ 効用と予算制約 ~
5講目	何に何円使おうか? ~ 効用と予算制約 ~
6講目	働くか、それとも遊ぶか? ~ 労働と所得・貯蓄 ~
7講目	モノをどれだけ作るのか ~ 生産関数と費用関数 ~
8講目	できるだけ、もうけたい... ~ 利潤の最大化 ~
9講目	モノの値段はどう決まる? ~ 市場制度と最適資源配分 ~
10講目	モノの値段はどう決まる? ~ 市場の失敗 ~
11講目	余剰と税金
12講目	不完全競争 ~ 市場の独占 ~
13講目	不完全競争 ~ 市場の寡占 ~
14講目	不確実性と所得配分
15講目	これまでの講義内容のまとめ・質疑応答、理解度の確認。

専攻研究(文化) / 前期のみ

年度	学科・科目群	講師名	学年	曜日・時間	授業形態	学期
2023年度	一般 専攻教養群	花岡 慧	全員 Both	木曜日 1時間目	講義	半期 春学期

講座到達目標

到達目標

春学期における本講座では、特に世界中で影響力を強く持つ言語を取り上げ、それらに関する知識や考察を通して各々が言語を学ぶ理由だけでなく言語を学ぶ一般的意義や語学が社会の中で持ちうる役割について実例をもとに調査し、考察を論述として形にすることを目標とする。

語学というのはただ修得するにとどまらず、どのような場所でどのように活かすことができるのかが重要であり、それを自身で見出し自分の言葉で説明できるようになることが本講座の目的である。

その他

教科書	プリント教材 パワーポイント資料
参考文献	梶茂樹他編著『事典 世界の言葉141』ISBN978-4-469-01279-8他授業中に適宜紹介
学習内容 授業形態	本講座では、最初に言語の歴史や家族関係について学ぶことから始める。 春学期では、そこから英語やフランス語などの国境を越えて広がっている言語のグループについて来歴や使用実態、影響などについて学んでいく。コミュニケーションの手段という言語の特徴に鑑みて、広く影響力を持つ言語について知ることはたとえその言語自体を専門的に学んでいなくても、言語を学ぶ普遍的意義についてより深く考察するための適切な例であると考え授業を進めていく。 また、授業内では適宜テーマを提示し、それについて考えたり文章にする経験を積むことで期末の論述課題につなげていく。
留意点	授業中は許可なくスマートフォン・携帯などに触れないこと。ハンドアウトはこちらで準備したものを配布するが、Teamsの機能を用いて配布することもあるため確認しておくこと。
授業時間以外の学習	課題を見据えたテーマ探しや資料の収集を日ごろから意識して行うことが望ましい。
評価方法	論述課題を最大の評価基準とする。授業の内容に関連して様々な資料を参考とするのが望ましいが、自身の考えを文章としてまとめることを最大限に重視する。課題のテーマはこちらで例示したものを採用してもよいが、テーマそのものを独自に設定した場合は若干の加点要素とする。また、授業中は適宜課題を提示するのでそれらに対する取り組みも評価に加味する。(回答に誤りがあっても減点とはせず、あくまで授業への積極的な参加を評価するものである)評価の比重としては課題80%授業点20%を目安とする。
実務経験と 科目の関連	

各講座内容については次頁に表記

各講座内容

1講目	ガイダンス・導入
2講目	世界の言語事情
3講目	言語同士のつながり
4講目	言語の比べ方
5講目	ヨーロッパの言語
6講目	イタリック語派 1 歴史・概要
7講目	イタリック語派 2—スペイン語の広がり・フランス語の影響—
8講目	イタリック語派 3—イタリア語の発信力・ポルトガル語と日本の結びつき—
9講目	イタリック語派 4 その他のイタリック語—
10講目	ゲルマン語派 1—概要・歴史—
11講目	ゲルマン語派 2—英語とその家族—
12講目	ゲルマン語派 3—明治維新以前に影響したオランダ語・以降に影響したドイツ語—
13講目	ゲルマン語派 4—北欧の諸言語—
14講目	春学期まとめ
15講目	補足・課題提出

専攻研究(地理) / 前期のみ

年度	学科・科目群	講師名	学年	曜日・時間	授業形態	学期
2023年度	一般 専攻教養群	辰己 真知子	指定なし	火曜日 5時間目	指定なし	通年 春学期

講座到達目標

到達目標
世界の自然環境(地形・気候・植生・植生・土壌など)と日本を含む世界各地に住む人びとの暮らしを学ぶ。各地域が抱えている課題をとらえ、その克服を地理学という視点から解決していく。

その他

教科書	『世界の観光地域』(2021)辰己真知子著 古今書院
参考文献	『図説 世界の地誌 改訂版』(2016)辰己勝・真知子著 古今書院
学習内容 授業形態	テキストを使用して講義をします。地図や写真を提示しながら進めていきます。
留意点	できれば地図帳を持参すること。
授業時間以外の学習	常日頃から地図を見る習慣を身に着ける。新聞などで世界の情報に関心を持つこと
評価方法	平常点(100点)、主題図作成(100点)、最終試験(100点)の平均点で評価します。
実務経験と 科目の関連	

各講座内容については次頁に表記

各講座内容

1講目	地理学とはどんな学問か? 地誌学とはどんな学問か?
2講目	世界の自然環境(地形・気候・植生・土壌)
3講目	世界の人文環境(言語・民族・宗教・経済)
4講目	東アジア 日本 中国 韓国の人びとの暮らしを学ぶ
5講目	東南アジア ミャンマー インドネシアの人びとの暮らしを学ぶ
6講目	南アジア インドの人びとの暮らしを学ぶ
7講目	西アジア・北アフリカ 自然環境と歴史 多様性
8講目	中南アフリカ 歴史と産業
9講目	ヨーロッパ1 イギリス スイスの人びとの暮らしを学ぶ
10講目	ヨーロッパ2 フランス イタリアの人びとの暮らしを学ぶ
11講目	アングロアメリカ1 アメリカ合衆国の歴史・文化・産業
12講目	アングロアメリカ2 アメリカの主要都市 カナダ
13講目	ラテンアメリカ 民族・言語・宗教 メキシコ ブラジル
14講目	オセアニア オーストラリア ニュージーランド フィジー
15講目	最終試験とまとめ